

講演会資料

小平市自治基本条例

(1) 自治基本条例 制定までの「流れ」

2006年3月～5月 市役所内 基本方針策定
(2005年4月 小林市長誕生 マニフェストの中心) 生活者ネット他一部議員

6月 メンバー募集

8月 市民の会議 準備会発足 61名(男39、女22)

・会則 ・組織(全体会 運営委員会 起草G 広報G 4部会)

2007年2月 「市民の会議」発足 市と協定締結

～5月 どんなまちにしたいか

5月～ テーマ別部会 討議

9月 第1次 骨子案

10月～11月 第1次 市民意見交換会

フォーラム (辻山先生) ~~市民意見交換会~~ 辻山先生

～12月 市民意見反映 全体会での条例案づくり

市との意見調整

2008年4月 第2次 骨子案まとめ

第2次 市民意見交換会

5月 市民案 市長提出

6月 条例案 議会提出

(自治基本条例特別委員会)による検討 1年6ヶ月

2009年12月 議会で可決 制定

全国で110～120

平成大合併 3,232 → 1,719(2011. 10) 職員 25万人 議員 2.9千人 コスト1,200億円

☆成功の要因

小平市

①市長のマニフェストが原点 「市民につくってもらう」これが自治の第1歩 覚悟

②「テニオハ」しか修正しない という約束

③庁内体制(専任担当者)

④ファシリティー&コンサルティング会社(地域研)の採用

市民の会議

①市民のみで結成 論議(学識経験者、行政メインではない)

②組織作りが成功、機能した

③代表3人制(ボスをつくらない 司会進行役・まとめ役)議長もなし

④熟議(原則 多数決をとらず)再議論、再々議論あり

5「納得しないが、了承します」

・人間、信じて任されると、期待に応えるもの

・自分の意見が聞いてもらえ、否定されないとわかれば話しやすい

・市民の力は凄い! 専門性、武蔵野美大

・人数が多いほど内容が精査され、良いものになっていく

P I …パブリック・インボルブメント

我孫子市 福島浩彦 市長 消費者庁長官